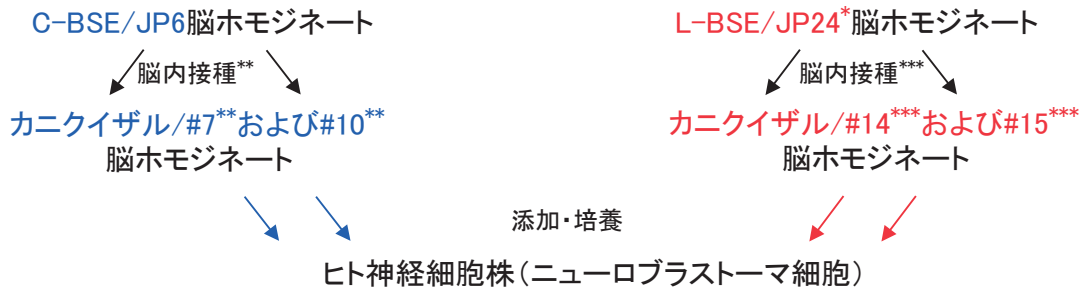


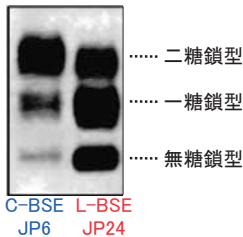
## 定型BSEおよび非定型BSEに関する研究 -ヒトニューロブラストーマ細胞を用いた解析-

研究分担者: 国立感染症研究所・細胞化学部 桶本(中村)優子

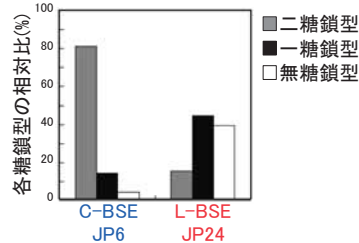
### 定型BSE(C-BSE)および非定型BSE(L-BSE)由来プリオンのヒトニューロブラストーマ細胞への感染実験



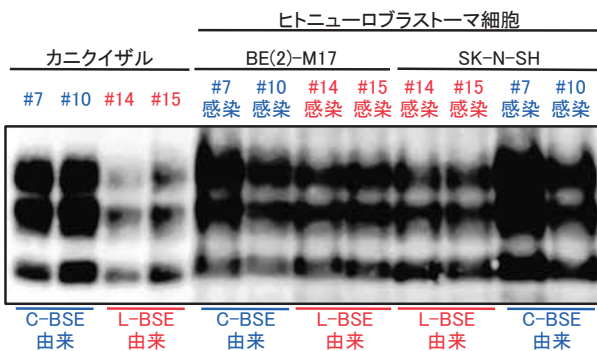
#### C-BSEおよびL-BSEプリオン



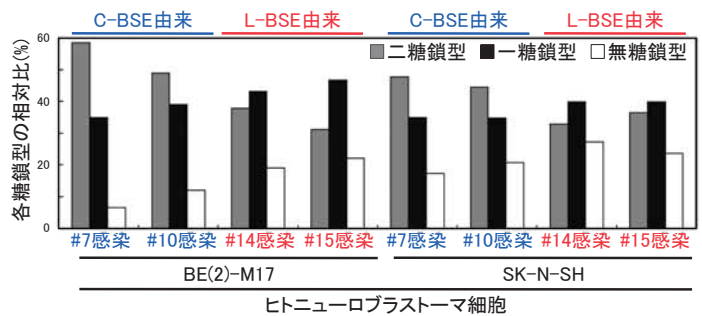
#### C-BSEおよびL-BSEプリオンの糖鎖型パターン



#### C-BSEおよびL-BSE由来プリオンの検出



#### C-BSEおよびL-BSE由来プリオンの糖鎖型パターン



### 解 説

1. 定型BSE (C-BSE)および非定型BSE(L-BSE)に感染させたカニクイザルの脳ホモジネートを用い、ヒト神経細胞株(ニューロブラストーマ細胞)への感染実験を試みた。
2. L-BSEの糖鎖型パターンはC-BSEに比べて一糖鎖型の割合が多いという特徴を有する。
3. ヒトニューロブラストーマ細胞株BE(2)-M17およびSK-N-SH細胞においてC-BSEおよびL-BSE由来プリオンの感染が成立する可能性が示唆された。また、L-BSE由来プリオンに感染させた細胞ではC-BSE由来プリオンに感染させた細胞に比べ、一糖鎖型の割合が多い傾向にあった。

参考文献    \* Hagiwara K. *et al.*, *Jpn. J. Infect. Dis.* 2007;60:305-308.

              \*\* Ono F. *et al.*, *Jpn. J. Infect. Dis.* 2011;64:50-54.

              \*\*\* Ono F. *et al.*, *Jpn. J. Infect. Dis.* 2011;64:81-84.